

年頭のごあいさつ



土浦市長

中川

清

新

年明けまして、おめでとうございます。
平成26年の初春を市民の皆様と共に迎えられる慶びをかみしめております。

さて、「内平らかに外成る」「地平らかに天成る」を由来とする平成の世も、はや25年、四半世紀が過ぎました。バブルに始まりそして崩壊し、その後も、少子高齢化、国際化や高度情報化など、大きな荒波が日本に押し寄せ、戦後の世界に冠たる平和と繁栄のパラダイムが、政治、経済、社会面の全てにおいて制度疲労を起こし、21世紀の新しいパラダイムを構築しなければならぬと言われてから、失われた20年が過ぎてしまいました。しかし、子どもたちへ、未来の日本を引き継ぐためにも抜本的な改革が、今こそ求められております。

その間、3年目を迎え、未だに復興の道半ばの東日本大震災、異常気象に見られる自然災害の脅威、原発事故による新しいエネルギー問題、少子高齢化は益々進み、社会保障関係費の増加による厳しい財

政状況、TPP問題に端を発した農政の改革、さらには、尖閣問題を始めた国際情勢など、内憂外患へしつかりとした対策が求められた1年でありました。一方で、6年後のオリンピックの東京開催が決定し、国民が半世紀ぶりのスポーツの祭典を祝福し、明るい兆しが見え始めた年でもありました。

本市におきましては、合併特例債に位置付けた事業のうち、新治地区公民館が完成、小町の館もリニューアルオープンし、また、市庁舎をはじめ、新消防本部庁舎、市営斎場などの移転、真鍋神林線や田村沖宿線などの新たな道路ネットワーク、神立駅前西口土地区画整理事業、神立駅駅舎の橋上化および自由通路の整備など、未来の土浦市の礎を築く事業は順調に進捗しております。企業誘致も全ての工業団地用地への企業の進出が決まり、新たな雇用の創出あるいは将来の財政にも明るい見通しが立ちました。さらに、5年後の茨城国体では、相撲および軟式野球が、本市で開催されることが決定されました。そして、新年度は常磐線の東京駅乗り入れが実現します。

今年も、国内外の大きな変化により、本市を取り巻く社会経済情勢、また、今後の本市の財政状況は厳しくなることが見込まれますが、私のまちづくりの基本姿勢であります、「行財政改革」と「市民の皆様との協働のまちづくり」の推進の一層の取り組みにより、事業の優先順位をしっかりと見定め、持続可能な「水・みどり・人がきらめく 安心のまち 活力のまち 土浦」の実現に向けた更なる飛躍の年にしたいと思えます。

本年が、市民の皆様にとって、素晴らしい一年でありますことを祈念し、新年の挨拶といたします。

